

3 生涯学習を充実する

15 学習活動の充実

| | | | |
|--------|--|----|------------------|
| ①施策の展開 | 学習環境の整備・充実 | 課名 | 社会教育課 地域教育振興課 |
| ②取組概要 | あらゆる年齢層に応じた様々な学習機会や、多様な方法による学習情報の提供を行う。また、市民の学習活動の普及促進を目指し、指導者養成に努める。 | | |
| ③構成取組 | (1) 生涯学習推進事業 (2) 社会教育施策推進事務 (3) 施設管理事業（教育センター、中央公民館、エスポアール） (4) 成人式事業 | | |

| | |
|-------|---|
| ④取組計画 | <p>(1) 市民の生涯学習活動を支援するため、学習情報の提供の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>まちのせんせい活用事業</u>⁽²⁷⁾を積極的に推進するため、実践発表会等を行い、市域での周知に努めるとともに、派遣回数増加を目指す。 ・ 成人教育講座事業については、市立校園 PTA 協議会や各コミュニティセンター、ふらっとねやがわと連携しながら、市民ニーズに合致したテーマでの学習機会の提供を図る。 <p>(2) 「社会教育推進計画素案」に対するパブリック・コメント手続を経て、「社会教育推進計画」を策定する。</p> <p>(3) 教育センター、中央公民館及びエスポアールにおいては、<u>指定管理者</u>⁽²⁸⁾による効率的・効果的な管理運営に努める。また、指定管理期間満了となる中央公民館の次期指定管理者を選定する。</p> <p>(4) 例年どおり早い段階から実行委員会を組織し、内容の更なる充実に努めるとともに参加者の増加を図る。</p> |
|-------|---|

⑤取組実績

(1) 市民の生涯学習活動を支援するため、各種講座やイベントの行政情報を提供する「講座・イベント編」、学習活動を行う団体やサークルの情報を提供する「団体・サークル編」の2種類の生涯学習情報誌（ねやがわ生涯学習あんない）を発行した。

<生涯学習情報誌発行数・掲載情報数>

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|-------|----------|----------|----------|
| 発行冊数 | 5,700 冊 | 5,700 冊 | 5,700 冊 |
| 掲載団体数 | 924 団体 | 938 団体 | 916 団体 |
| 掲載講座数 | 772 講座 | 711 講座 | 726 講座 |

- ・ まちのせんせい活用事業では、新たに9人が登録した。また実践発表会やまちのせんせい体験講習会をコミュニティセンターで行い、保育所・幼稚園・小・中学校・福祉施設等へ積極的にPRを行った。

<事業参加状況>

| | 項目 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|-------------------|--------|---------------------------|----------|----------|
| まちのせんせい 養成活用事業 | 延べ登録者数 | 122 人 | 107 人 | 116 人 |
| | 派遣依頼件数 | 154 件 | 103 件 | 116 件 |
| | 派遣人数 | 151 人 | 98 人 | 91 人 |
| | 主な指導内容 | マジック・人形劇・自然・手作り工作・他 74 種別 | | |
| 成人教育講座 | 延べ参加者数 | 889 人 | 776 人 | 840 人 |

(2) 社会教育施策の充実を図るため、社会教育委員会議を年4回開催した。また、「社会教育推進計画素案」に対するパブリック・コメントを実施し、市民の意見を踏まえながら、「第五次総合計画」における社会教育施策を体系的に推進するため「社会教育推進計画」を策定した。

(3) 指定管理者による効率的・効果的な管理運営を行うとともに、より適正な管理運営となるよう、実地調査や指定管理者からの事業報告等に基づき、実績検証を実施した。

- ・ 教育センターの事業については、「子どもデイサービス事業」

「生涯学習事業」「イベント事業」を実施した。また、体験活動を通じ児童及び青少年の健全育成を図るとともに、幼児、子どもから高齢者に至るまでの世代間交流を推進し、人とのふれあいを図った。

- ・ 教育センターについては、公共施設等整備・再編計画（改訂版）に基づき、廃止に向け関係部署と連携し取組を進めた。

<教育センターの利用者数>

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|--------|----------|----------|----------|
| 事業参加者数 | 56,128 人 | 56,111 人 | 58,279 人 |
| 貸館利用者数 | 20,008 人 | 26,287 人 | 22,729 人 |

- ・ 中央公民館の事業については、従来から実施している講座の充実を図るとともに、家族を対象とした事業を実施した。また、高齢者の利用も多いことから、「認定登録団体救命救急講座」を開催した。
- ・ 中央公民館については、平成 27 年度から 5 年間の指定管理者を選定委員会を経て指定した。

<中央公民館の利用者数>

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 事業参加者数 | 17,565 人 | 19,141 人 | 23,495 人 |
| 貸館利用者数 | 169,011 人 | 201,704 人 | 195,645 人 |

- ・ エスポアールの事業については、「青少年成人事業」「児童健全育成事業」「親子ふれあい事業」「世代間交流事業」「子育て支援事業」を実施した。また、旧館 1 階に学習スクエアを常設し、誰もが自由に利用できる空間を確保した。

<エスポアールの利用者数>

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 事業参加者数 | 112,312 人 | 146,438 人 | 130,743 人 |
| 貸館利用者数 | 104,852 人 | 105,494 人 | 102,422 人 |

(4) 一般公募等で実行委員会を組織し、実行委員自らが企画・立案に関与でき、自らの手で作り上げていくことができた。また、寝屋川リーダーズの高校生や大学生も当日はスタッフとして参加し、事業を手伝うことで将来の担い手の育成にも繋げることができた。

<成人式参加状況>

| | 項目 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|-----|------|----------|----------|----------|
| 成人式 | 対象者数 | 2,392 人 | 2,297 人 | 2,463 人 |
| | 参加者数 | 1,413 人 | 1,384 人 | 1,614 人 |
| | 参加率 | 59.1% | 60.3% | 65.5% |

⑥評価

(1) 生涯学習情報誌を発行するとともに、その内容をホームページに掲載し、幅広い情報提供を図ることにより、市民の生涯学習活動を支援することができた。

- ・ まちのせんせいは、5人以上の団体にしか派遣できないが、体験講習会をコミュニティセンターで実施し、1人からでも体験できる機会を作り、複数のまちのせんせいに実演していただき宣伝活動を行うことで、利用者から好評を得た。
- ・ 成人教育講座については、コミュニティセンターと連携することで、その地域におけるニーズに合致した講座を開催することができ、また参加者は高齢者が多く、地元での開催に好評を得ている。

(2) 社会教育推進計画を策定したことで、今後の社会教育の推進に当たり、より効率的で明確な事業の設定や進捗管理が可能となった。事業の推進に当たっては、社会教育委員、関係団体・機関、指定管理者等と連携を一層進めていく必要がある。

(3) 教育センター、中央公民館及びエスポアールにおいては、指

定管理者に対する実地調査や実績検証を通じ、適正な管理運営を図ることができた。今後も引き続き、ニーズに応じた取組の実施を検討していく。

なお、各施設の貸館利用者数の減少の要因は、市民体育館の耐震化工事により平成 25 年度の利用者数が一時的に増加したことが推測される。

- ・ 教育センターについては、平成 27 年度末に施設を廃止するに当たり、関係部署と協議しながら、事業の集約と運営について着実に方策を検討していく必要がある。
 - ・ 中央公民館については、家族と親しむ事業を実施することで子育て中の保護者の参加機会の増加を図るとともに、救命救急講座を新たに開催することで、利用者の安全・安心意識の向上に寄与した。
 - ・ エスポアールについては、学習スクエアを常設することで、市民の主体的な学習の場と交流の場を提供するとともに、利用率の向上が図れた。また、ケーブルテレビの取材に対して、施設利用や事業を幅広く案内することで、利用促進に努めた。
- (4) 新成人で組織する実行委員会での企画運営に関しては、新成人の意向、ニーズを反映するための創意工夫によって、成人式の参加者も年々増加していることから、一定の成果が認められ、今後も継続して実施していく。

16 図書館の充実

| | | | |
|--------|---|----|-------|
| ①施策の展開 | 学習環境の整備・充実 | 課名 | 中央図書館 |
| ②取組概要 | <p>子どもの読書活動推進のため、ボランティアとの協働・学校園との連携を進める。また、利用者へのサービスの向上を図るため、蔵書やeブック⁽²⁹⁾などの電子情報の充実に努める。</p> <p>読書環境の向上のため、図書館施設の整備・充実に努める。</p> | | |
| ③構成取組 | <p>(1) 利用者サービス事業</p> <p>(2) 読書普及啓発事業</p> <p>(3) 資料収集・保存事務</p> <p>(4) 障害者・高齢者・多文化サービス事業</p> <p>(5) 図書館施設管理事業</p> | | |

| | | | |
|-------|---|--|--|
| ④取組計画 | <p>(1) 図書館蔵書の充実に図るとともに利便性の高いサービスを提供する。</p> <p>(2) 市民との協働、学校園との連携を図りながら子ども読書活動を推進する。また、各種講座・イベントを通じて利用者の拡大を図る。</p> <p>(3) 資料の収集・保存事務を推進する。</p> <p>(4) 障害者・高齢者サービスの充実及び障害者・高齢者の読書環境充実に図る。</p> <p>(5) 図書館（3館・4分室）の効果的・効率的な運営手法の検討を行う。また図書館の安全確保のため書架を耐震固定する。</p> | | |
|-------|---|--|--|

| | | | |
|-------|--|--|--|
| ⑤取組実績 | <p>(1) 蔵書数を増やし資料の充実に図った。個人貸出冊数は前年度比で、駅前図書館は増加し、他館は減少した。インターネットでの予約サービスも増加した。平成25年度開館のキャレル内市民ギャラリーは、開館記念行事分を除けば平成</p> | | |
|-------|--|--|--|

26年度も同程度の高い利用率であった。

<蔵書冊数> (単位：冊)

| | | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|-------------|-----|----------|----------|----------|
| 受 入 数 | 購入数 | 46,885 | 30,415 | 29,026 |
| | 寄贈数 | 1,333 | 2,422 | 1,780 |
| | 合計 | 48,218 | 32,837 | 30,806 |
| 蔵書累計 | | 500,242 | 508,658 | 522,287 |

※ 点字図書・視聴覚資料を含む

<個人貸出冊数> (単位：冊)

| | | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|-------|--|-----------|-----------|-----------|
| 中央図書館 | | 627,834 | 506,277 | 463,339 |
| 東図書館 | | 292,950 | 220,534 | 216,860 |
| 駅前図書館 | | — | 324,961 | 353,886 |
| 分 室 | | 156,481 | 154,574 | 150,474 |
| 移動図書館 | | 19,197 | 14,899 | 14,828 |
| 総 計 | | 1,096,462 | 1,221,245 | 1,199,387 |

※ 分室は西北・南・東北・西南4分室の合計冊数

<団体貸出の貸出冊数>

| | | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|--------------|--|----------|----------|----------|
| 貸出冊数 | | 44,481 冊 | 34,260 冊 | 43,088 冊 |
| 学校園所 | | 40 校園所 | 35 校園所 | 38 校園所 |
| 地域文庫の 団体数 | | 1 団体 | 5 団体 | 1 団体 |
| その他の 団体数 | | 60 団体 | 58 団体 | 49 団体 |

※ その他の団体は留守家庭児童会や読書関係の市民団体。

- ・ 平成 25 年度は団体貸出図書入替え（返却・貸出）時期（平成 24 年度末から 25 年度当初まで）が駅前図書館のオープンと重なり、時期をずらして入替えを行ったため 10,221 冊減少となった。

<インターネットでの予約サービスの状況> (単位：冊)

| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|-------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 予約受付数 | 178,210 | 204,152 | 209,837 |
| 内ネット 予約数 | 70,545 (40%) | 96,957 (47%) | 100,706 (48%) |

<市民ギャラリー利用状況>

| | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|---------|----------|----------|
| 利用可能日 | 311 | 308 |
| 利用日数 | 288 | 278 |
| 利用率 (%) | 93% | 90% |
| 入場者数 | 33,388 | 26,660 |

- ・ 平成 26 年度は開館記念行事が無かったため、利用状況は、わずかに減少した。
- ・ 従来からの利用者（団体）が全利用の約 7 割であるが、多目的な新規利用も増えた。
- ・ 産業振興室と連携し、利便性の高い市民ギャラリーでハローワーク枚方の臨時求職相談を開く等、幅広く市民ギャラリーを活用し市民サービスの向上に努めた。

(2) 子ども読書活動推進の一環として、早期から絵本に親しむことができるよう「赤ちゃんに絵本を贈ろう事業」や子ども読書活動推進啓発講座「だっこでよんで、あそんでよんで」等を実施した。また、子どもの読書環境を整備するため学校園所等への団体貸出を実施した。※団体貸出は前掲表を参照。

<子ども向け講座・講演会等参加状況>

| 事業名・講座名等 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|---------------------------|-------------|-------------|-------------|
| 子ども読書活動推進啓発講座 (4回×3講座) | 507人 | 345人 | 443人 |
| 絵本と子ども どんな絵本読もうかな | 109人 | — | — |
| 絵本で子育てにこにこ赤ちゃん | 188人 | 382人 | 1,099人 |
| 保育所でのブックスタート | 3,189人 | 3,189人 | 3,036人 |
| 絵本を贈ろう事業(配布冊数) | 2,587冊 | 1,869冊 | 1,800冊 |
| としょかんまつり | 2,122人 | 2,303人 | 2,185人 |
| としょかんまつり講演会 | 62人 | 46人 | 66人 |
| 絵本タイム(読み聞かせ) | 3,498人 | 5,070人 | 7,767人 |
| 絵本タイムスペシャル | — | 114人 | 122人 |
| おはなしの入門講座 | 144人 | 153人 | 126人 |
| 子どもの本に関するワークショップ | 83人 | — | 37人 |
| 子どもの本の入門講座 | — | 94人 | — |
| おたのしみ会(中央) | 533人 | 417人 | 465人 |
| 読み聞かせ講座 | 16人 | 63人 | 38人 |
| 児童文学講演会 | 48人 | 75人 | 38人 |
| 児童文学地域講座 | 101人 | 164人 | 95人 |
| 春「子ども読書の日関連行事」 | 104人 | 81人 | — |
| 秋「読書週間行事」 | 46人 | 65人 | 132人 |
| ビデオ上映会 | 169人 | 232人 | 230人 |
| おはなし会(東) | 241人 | 196人 | 162人 |
| 紙芝居タイム(東) | — | — | 302人 |
| 七夕まつり(東) | — | — | 108人 |
| お正月を遊ぼう(東) | — | — | 125人 |
| 各種行事 | 289人 | — | — |
| ミニミニおはなし会(駅前) | — | 761人 | 583人 |

| | | | |
|-----------------------|---------|---------|---------|
| ぬいぐるみのお泊り会(駅前) | — | 15組 | 30組 |
| おたのしみ会(駅前) | — | 52人 | 57人 |
| 小学生のためのおはなし会(駅前) | — | 7人 | 51人 |
| 子ども向け講座・講演会等 参加者合計 | 14,036人 | 15,693人 | 19,097人 |

- ・ 市民の読書活動推進のため、図書館でコンサートや講演会等を開催し、新たな図書館利用者の拡大に努めた。

<一般向け講座・講演会等参加状況>

| 講座名 | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|
| サマーコンサート | 80人 | 150人 | 100人 |
| ハンドベルコンサート | — | 80人 | — |
| ウインターコンサート | 77人 | — | 115人 |
| 文学講演会 | 80人 | 26人 | — |
| 平和を考える朗読会 | — | — | 17人 |
| ビブリオバトル(駅前) | — | 35人 | 17人 |
| ビジネス支援講座 | — | — | 37人 |
| セカンドライフ支援講座 | — | — | 32人 |
| 読書会 | 95人 | 101人 | 89人 |
| 一般向け講座・講演会等 参加者合計 | 332人 | 392人 | 407人 |

- (3) 歴史的資料データを図書館ホームページに掲載し市民が検索・活用するための準備として、データ非掲載資料の選定基準の検討及び資料所蔵者との許可交渉の在り方について検討した。

- (4) 視覚障害者向け点字・録音図書を作成を、市民団体との協働で行い、平成 26 年度は、点字 9 タイトル、テープ録音 2 タ

イトル、デイジー録音 37 タイトルを作成した。また、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者や視覚障害者関係団体に配布し利用促進を図った。

<点字・録音図書貸出数>

| | | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
|------------|------|----------|----------|----------|
| 点字図書 | タイトル | 8 タイトル | 10 タイトル | 15 タイトル |
| | 巻数 | 29 巻 | 25 巻 | 51 巻 |
| テープ 図書 | タイトル | 193 タイトル | 216 タイトル | 189 タイトル |
| | 巻数 | 1,357 巻 | 1,257 巻 | 1,288 巻 |
| デイジー 図書 | タイトル | 455 タイトル | 173 タイトル | 180 タイトル |
| | 巻数 | 455 巻 | 173 巻 | 180 巻 |

(5) 図書館サービスの維持・向上のため、東図書館・駅前図書館の窓口業務を委託し効率的・効果的な運営に努めた。

⑥ 評価

(1) 図書館全体の年間個人貸出冊数は、前年度比 21,858 冊、率にして約 1.8%減少した。平成 25 年度は、駅前図書館のオープン効果で全体的に増加したが、平成 26 年度は利用者が駅前図書館にシフトし、中央図書館、東図書館で利用が減少した。減少の社会的要因としては電子図書・雑誌等の普及で読書メディアが多様化したこと等が考えられる。今後は、駅前図書館開館で得た新規利用者の定着を図る等、更に図書館の利用促進に努めていく必要がある。

市民ギャラリーの利用状況は、開館 2 年目も高い利用率となり、また新たな利用者（団体）が増えている。

(2) 子ども向けの各講座・事業では、19,097 人の参加があり、「赤ちゃんに絵本を贈ろう事業」では、1,800 冊の絵本配布を行い、図書館へ来館する親子が増える等の成果が見られ

た。また関係課と連携し4か月児検診未受診の赤ちゃんにも絵本を届ける体制を整備した。今後は、更なる子ども読書活動推進のため、第2次寝屋川市子ども読書活動推進計画を策定し、事業の効果的な進捗を図る。

(3) 資料目録のデータベース化を完了し、市民一般公開への条件整備を行い、図書館ホームページ上からの検索を可能とする準備作業を進めた。これによって市民が市の歴史について資料を調べることが可能となる。

(4) 視覚障害者向けサービスでは、市民団体と協働して、録音図書の実充に努めた。また、録音図書目録を視覚障害者等に配布するなど、利用者の利便性向上を図った。

(5) 前年度に引き続き東図書館、駅前図書館の窓口業務を委託し、図書館の効率的・効果的な運営に努めた。

17 家庭の教育力の向上

| | | | |
|--------|---|----|---------|
| ①施策の展開 | 家庭の教育力の向上 | 課名 | 地域教育振興課 |
| ②取組概要 | <p>子育てやしつけに不安や悩みを抱える家庭を支援するため、家庭教育サポーターを小学校に派遣し、相談体制の拡充を図る。</p> <p>社会教育団体などと協働し、市民のコミュニティの促進を図るとともに、市民との協働による生涯学習の機会の充実を図る。</p> | | |
| ③構成取組 | <p>(1) 元気子どもフォーラム事業</p> <p>(2) <u>家庭教育サポートチーム</u>⁽³⁰⁾派遣事業</p> <p>(3) 家庭教育学級事業</p> <p>(4) 関係機関・団体との協働</p> | | |
| ④取組計画 | <p>(1) 元気子どもフォーラム事業を家庭教育支援連絡会と連携し、全体講演会と4つの分科会を構成し、中央公民館で開催する。</p> <p>(2) 家庭教育サポートチーム派遣事業を行い、各中学校区に1人配置するとともに、その実績を検証・評価し、今後の方針を決定する。</p> <p>(3) 家庭教育学級として、12小学校で「家庭教育講座」を、2コミュニティセンターで「わいわい楽しく子育て広場」を開催する。また家庭教育支援者を養成するための講習会も開催する。</p> <p>(4) 市立校園PTA協議会の活動が円滑に運営できるよう、地域や保護者同士の交流や連携が図られることで、家庭や地域の教育力向上につながるよう、各種事業の支援を実施する。</p> | | |
| ⑤取組実績 | <p>(1) 元気子どもフォーラムは、「元気子育てフォーラム」と「子どもを守る市民集会」を統合し、再構築。家庭教育支援連絡会等と連携し、「学校・家庭・地域で育てる～子どもの明るい未</p> | | |

来のために～」を全体テーマに、全体講演会では杉本厚夫氏、分科会では、世代別に4つのテーマで開催した。

- (2) 家庭教育サポートチーム派遣事業を行い、各中学校区に1人配置（中央小・桜小・北小・明和小・和光小・第五小・南小・点野小・啓明小・宇谷小・木屋小・木田小）し、子育てに不安や悩みを抱える保護者に接し、家庭の健全化、青少年の健全育成に寄与した。
- (3) 家庭教育学級として、家庭教育サポーター配置校で「家庭教育講座」を、2コミュニティセンターで4回連続講座を開催し、保護者が孤立化しないよう支援を行った。また家庭教育支援者スキルアップ講習会を開催し、家庭教育支援者の養成に努め、延べ210人が受講した。

<各種事業参加状況>

| | | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|-----------------|------|--------|--------|--------|
| 元気子どもフォーラム | | — | — | 933人 |
| サポートチーム 派遣事業 | 訪問回数 | 1,040回 | 1,975回 | 2,533回 |
| | 相談件数 | 876件 | 1,769件 | 2,717件 |
| | 児童対応 | — | — | 4,601回 |
| 家庭教育学級 | | 661人 | 912人 | 1,229人 |

- (4) 市立校園PTA協議会は中学校区ごとに選出された役員によって運営され、単位PTAの自主的な活動を支援するとともに青少年の健全育成、地域教育力の向上に貢献し、市の様々な事業へも積極的に参画している。支援事務としては各種事業が円滑に行えるように助言を行った。また各種事業の参加者に関しては、年度ごとに隔たりがある。

| ＜市立校園 PTA 協議会支援事務参加者数＞ | | | |
|------------------------|----------|----------|----------|
| | 平成 24 年度 | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 |
| バレーボール大会 | 1,820 人 | — | 1,500 人 |
| P T A 音楽祭 | 927 人 | 179 人 | 136 人 |
| P T A 大会 | 917 人 | 852 人 | 854 人 |
| ドッジボール親善交流会 | 2,115 人 | 810 人 | 1,295 人 |

| | |
|-----|---|
| ⑥評価 | <p>(1) 元気子どもフォーラムは、家庭教育支援連絡会や民生委員児童委員協議会等と連携しながら、教育と福祉の垣根を越えた議論の中からテーマや内容を構成した。中央公民館で開催し、全体講演会と分科会の2部制という形式を取り、分科会では年代別に4つのテーマで開催。講師との意見交換やグループワーク形式等で参加者の意見も取り入れ、子育ての支援の在り方について考える機会となった。</p> <p>(2) 家庭教育サポートチーム派遣事業については、子育てに悩みや不安を抱えた保護者への周知がなされてきたこともあり、各小学校からの派遣ニーズも高く、サポーターの家庭訪問回数や相談件数がともに増加している。また、児童対応はその背景にある家庭や保護者の状況を把握するために必要不可欠なものとなっている。孤立する家庭への支援や家庭の健全化を図っていくために、今後もサポーターを増員するとともに、より充実した支援を行うためにスクールソーシャルワーカーや民生委員児童委員とも連携を図っていくことが重要である。</p> <p>(3) 家庭教育学級における「家庭教育講座」は91%、「わいわい子育て広場」は98%、「家庭教育支援者スキルアップ講習会」は94%の参加者からの満足度を得ることができ、孤立する家庭への支援や家庭教育に対する学習機会を市民に提供することができた。</p> |
|-----|---|

| | |
|--|--|
| | <p>(4) 市立校園 PTA 協議会事務の円滑な運営がなされるよう事業マニュアルの作成や役員間の引き継ぎ等への助言を行い、自主運営を更に目指す必要がある。</p> |
|--|--|